

学部生の多様な〈個性〉を活かす～ESの 人選と運用のポイント～



文学部・言語コミュニケーション学域 西岡亜紀

Overview

1. 自己紹介（前提条件）
2. ES人選のポイント
3. ES運用のポイント
4. まとめ

1. 自己紹介 (前提事項)

創作実践

=文章表現/音声表現

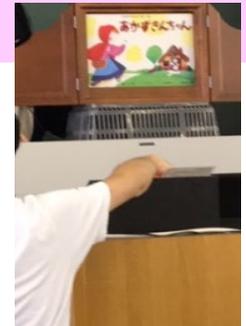
- ・ 研究入門
- ・ 基礎講読
- ・ 言語表現メディア概論
- ・ 言語表現メディア探究
- ・ ライティングの技法

- ・ コミュニケーション表現法基礎
- ・ 言語表現メディア作品研究
- ・ 音声表現実践演習

卒業研究

- ・ 専門演習
- ・ 卒業論文/卒業制作

メディア表現研究



2022/10/19
研究と実践を行き来しながら新しいメディア環境での表現を創る

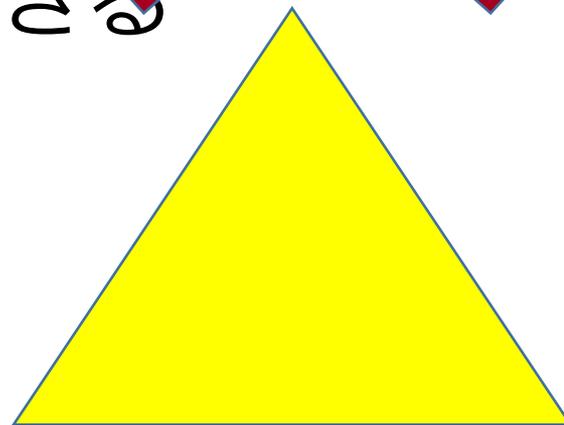
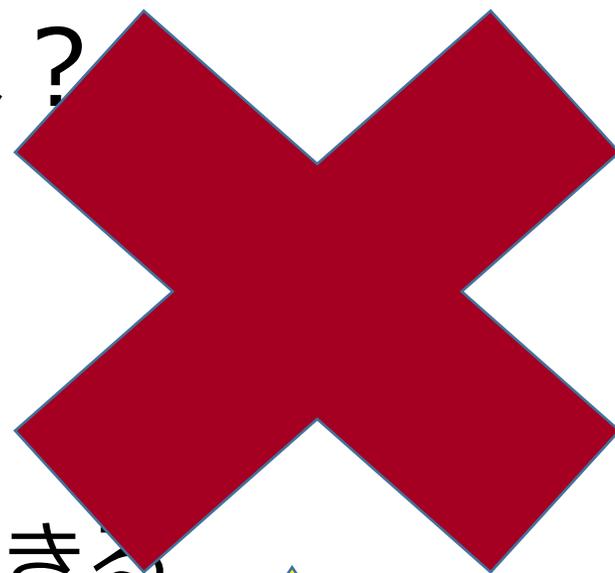
2. ES人選のポイント

ESに向いている人とは？

一般的なイメージ



- 成績優秀
- 挫折が少ない
- 教師に忖度できる

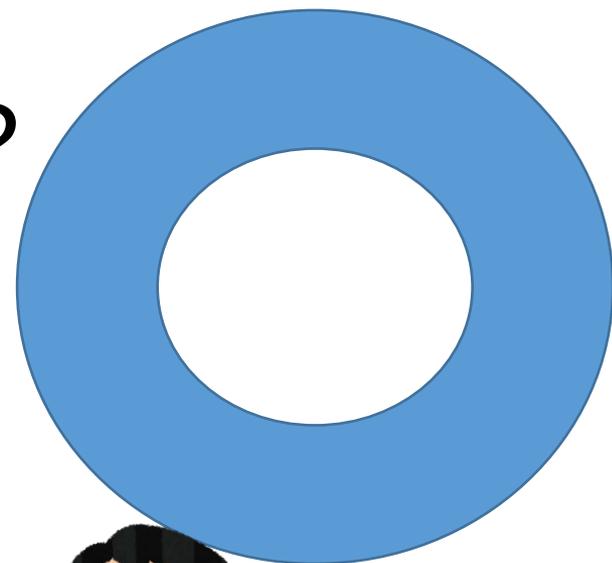


×必ずしもおとなしく従順な優等生タイプが万能というわけではない

△GPAもあまり気にしなくてよい（できないことがあるくらいが○）

ESに向いている人とは？

- ① **科目（教学）の趣旨と**
マッチングする「個性」
- ② 似通った授業を**既習**
- ③ **多様な学生に対する寛容**
なパーソナリティ・包容力
(↑実はこれ、無意識の行動た
から一番人選が難しいところ。
優等生タイプが△なのもここ)



未来のES人選のために、ゼミを含めた授業で行動観察しておく

未来のES運用のために時間をかけて信頼関係を築いておく

3. ES運用のポイント(事例1：2021「言語表現メディア作品研究」)

こんな科目でした

- ①研究・実践のために多様な先行作品を読む
- ②ワークでミニ創作実践
- ③推し作品紹介でミニ分析実践

こんなESでした

- ①ゼミOG（残した単位履修中5回生）
- ②高校文芸で全国1位レベルの受賞歴
文章技能はオールマイティ
- ③受賞歴を思わせない謙虚さ
- ④劇団裏方、地方出身

受講生の声（抜粋）

- ①書き手の側の構えがよくわかった
- ②「フィクションのための完全なノンフィクション」という言葉、納得
- ③ワークを一緒にできたことがとても刺激的だった
- ④なぜか気が合った（笑）

こんなことをやってもらいました

- ①動画「完全なフィクションの作り方（書き手の視点から自作を解説する）」作成
- ②ワークのアイデア提供（短歌パズルゲーム・三文村上春樹ほか）
- ③ワーク・グループ討論に参加

確実に、教員にはできない実践者の生の声や生の姿を提供・補充

3. ES運用のポイント（事例②：2022「研究入門Ⅰ」）

こんな科目でした

- ①1回生春に高校から大学での学びへの切替を行う基礎ゼミ的な授業
- ②前半グループで文献講読、後半はグループで研究発表
- ③**教学部の趣旨は「コロナ禍で縦のつながりが無いことに配慮」**

こんなESでした

- ①ゼミ3回生、アジア圏からの留学生
- ②スポーツでの挫折経験、母国での兵役、大学進学などを経て、いまここ
- ③同じ科目での成績優秀者
- ④温かい、優しい、落ち着いている

受講生の声

- ①留学生と接する機会がなかったので、〇さんと接して、「大学生になった実感」ありました！
- ②安心感ありました
- ③相談に乗ってくれてありがとうございます

こんなことをやってもらいました

- ①講読発表に対するコメント
- ②研究発表に対するコメント
- ③ワーク・グループ討論に参加
- ④よろず相談

本来の大学生活ではあるはずだがコロナ禍で失われているものを補充

4. まとめ：多様な「個性」を活かす

ESの多様な「個性」を活かす

ESの多様な「個性」

科目（教学）の趣旨

多様な「個性」

教員に足りないもの

多様な背景を持つ人々をつなぐグループダイナミクス



4. まとめ

教室の多様な「個性」を活かす

ESの多様な「個性」

科目（教学）の趣旨

多様な「個性」

教員はコーディネーター

多様な背景を持つ人々をつなぐグループダイナミクス



ES活用の最大のポイントは教室全体多様な「個性」を活かすことなので、教員が自分や現状の教室に足りないことを自覚することが肝